

「尖閣1945」

太平洋戦争末期・・・

尖閣諸島で起きた悲劇を映画化

 沖縄県石垣市

人々を救ったのは、真水をたたえた日本の領土だった
「知られざる戦争の真実 知らなければならない戦争の真実」

この映画は、極限状態の中での、勇気と優しさ、日本人の誇りを描いた門田隆将氏のノンフィクションを映画化するものです。そして、尖閣、大洋の自然が、国や人種に関わりなく人類の命を慈しむ存在であることを描きます。

現在、全世界から注視されている尖閣諸島を舞台にした奇跡の事実の映画化を目指します。

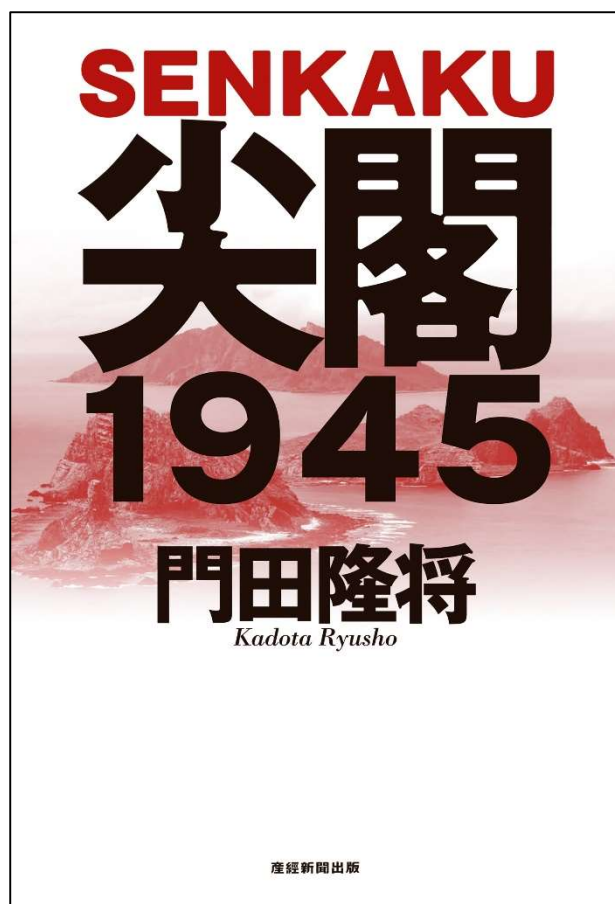
ふるさと納税
企業版ふるさと納税



募集中！

(お問い合わせ先)

石垣市役所尖閣諸島対策室 0980-82-1350



太平洋戦争末期、沖縄本島陥落から一週間後。米軍の上陸を恐れた石垣島の人々は、2隻の船で台湾への疎開を開始する。しかし、海上で米軍機に攻撃され1隻は沈没。もう1隻もエンジンを損傷し、かつて**日本人が暮らしていた真水のある魚釣島**に漂着。船は流され、上陸した人々は飢えと病に次々と倒れていく。このまま、島で死を待つしかないのか。



石垣市長／中山義隆

太平洋戦争末期、石垣島から台湾に向かっていった疎開船が米軍の攻撃を受け、多くの犠牲者が発生した「尖閣列島戦時遭難事件」の史実、そして、人々を救ったのが真水をたたえた日本の領土であったことを多くの方々に知っていただくことを目的に、門田隆将氏の著作『尖閣1945』（産経新聞出版）の映画を製作するためのふるさと納税、及び企業版ふるさと納税の募集を行っています。

「尖閣列島戦時遭難事件」とは、太平洋戦争末期の1945年7月、多くの女性や子ども達を乗せ石垣島から台湾へ向かっていった2隻の疎開船、第一千早丸と第五千早丸が米軍機の攻撃を受け、第五千早丸は沈没、第一千早丸もエンジンの損傷により、尖閣諸島の魚釣島に漂着した史実であります。魚釣島などには、明治時代から最盛期248人が住んでいた「古賀村」があり、鰹節工場などで営々とした日本人の生活がありました。そのため、真水があったことから、しばらくの間は人々は生き長らえることができましたが、1940年に鰹節工場は既に閉鎖されており、無人島となっていたため食料がなかったことから、餓死者が出る事態となってしまいました。そこで、生き残った人々は、木造船を作り、8人が決死隊を結成して石垣島に助けを求めたことにより救助された悲劇であります。

魚釣島には、今も日本人の遺骨が多数埋まっています。生と死をめぐる感動ドラマが沢山存在します。

ふるさと納税とは、**自分の意志で応援したい自治体を選ぶことが出来る制度**です。自分の生まれ故郷に限らず、どの自治体にでもふるさと納税を行うことが出来ます。**税金の控除もあります**し、一定の条件を満たせばワンストップ特例制度もご利用いただけます。また、**5万円以上のご寄附をいただいた方々のお名前を、映画のエンドロールで紹介させていただきます。**

企業版ふるさと納税とは、国が認定した地方公共団体の地方創生の取組に対して企業が寄附を行った場合に、寄附額の最大約90%の法人関係税が軽減される制度です。例えば、1,000万円の寄付を行った場合は、最大で約900万円の法人関係税の軽減を受けることができます。

現在、全世界から注視されている尖閣諸島を舞台としたノンフィクション作品を映画化することには、大変大きな意義があるものと考えております。尖閣諸島で起きた史実を一人でも多くの方々に知っていただくため、**ふるさと納税、及び企業版ふるさと納税にご理解・ご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。**



原作者／門田隆将



監督／五十嵐匠